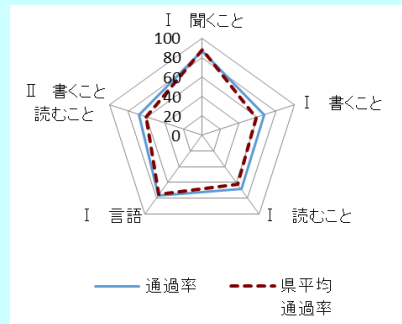
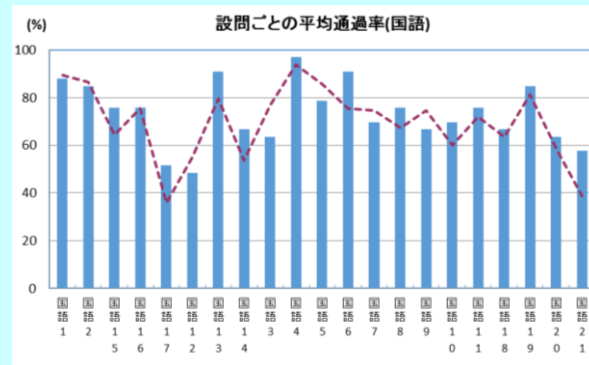


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 73.4%, 県 69.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
タイプⅠの正答率は74.7%, タイプⅡの正答率は68.2%であった。昨年度の生徒集団と比較すると、タイプⅡの正答率は17.4%低く、著しい差がある。従って、当該学年は発展的な内容の習熟に課題があると考えられる。
- 昨年度の課題の取り組みの結果
昨年度、「一文を意味を変えずに二文にする」問題の通過率が38.5%だったことを受けて、文章を推敲する指導を重点的に実施した結果、同様の問題についての通過率が51.5%となった。通過率は上昇したものの、依然として低い水準であるため、指導改善をしていく必要がある。

重点課題

- 【課題1】段落相互の関係の把握について、文末表現や接続詞に着目して正しい関係を把握したうえで、設問の条件に合わせて解答することができた生徒の割合が48.5%と少ない。
- 【課題2】叙述の仕方の確認の問題について、一文を意味を変えずに二文できた生徒が51.5%と少ない。特に、適切な主語を補うことに課題がある。継続して指導改善をしていく。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

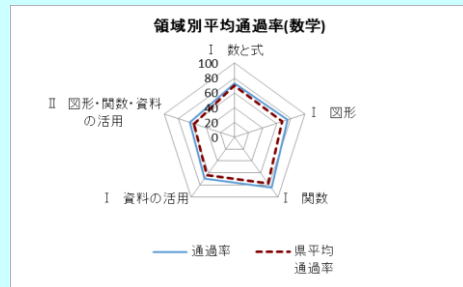
- 【課題1】
 - ・文章中の論理的关系について、構造的な板書を通して、理解できるように指導する。
 - ・接続詞に着目した読解ができるように、発問計画を改善していく。
- 【課題2】
 - ・作文指導に際して、ペアやグループでの推敲をひきつづき行う。
 - ・適切な主語を補えるようにするため、主語・述語についての復習する機会を設けていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間テスト		1・2年生期末テスト		1・2年生学年末テスト	
目標値		60%		70%		80%	
実施後数値							

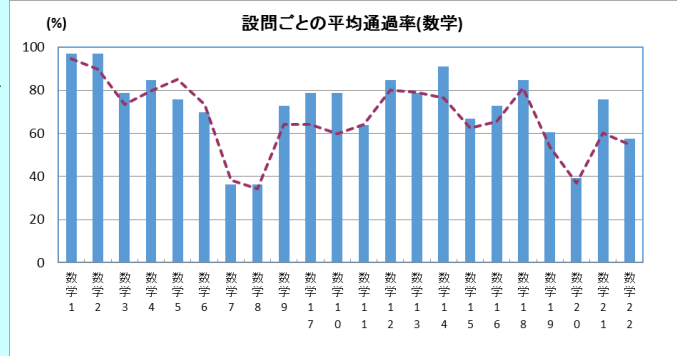
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間テスト		1・2年生期末テスト		1・2年生学年末テスト	
目標値		60%		70%		80%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.9%, 県 66.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
タイプⅠは 72.7%, タイプⅡは 63.6%である。また、タイプⅠの設問ごとにみると、数と式は 72.7%, 図形は 75.8%, 関数は 84.8%, 資料の活用は 63.6%で一定の基礎学力は身につけている。ただし、領域「数と式」文字式の表し方の2問はともに 36.4%であり、線図から比較量を読み取ることに課題がある。
- 昨年度の課題への取り組みの結果
昨年度は、タイプⅠの「資料の活用」のが 30.8%と低く、「資料の活用」領域(通過率 48.1%)にも課題があった。説明をし合ったり、数学的な用語を用いて発表したりする活動を仕組み、理解・定着を計ってきた結果、66.7%と大きく上昇した。

重点課題

【課題1】

比較量に関する数量の関係を、文字を用いた式でことに課題がある。
2- (1), 2- (2)

【課題2】

事象を式の意味に即して解釈し、その結果について比例の関係または反比例の関係のどちらかを判断することの応用問題を考えることに課題がある。
10- (2)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・文字式の理解, 比較量の求め方の定着を図るために, 繰り返し練習問題を行う。
- ・図やグラフを用いて, 数量関係の読み取りを行い, そのことをより一層深める活動を行う。

【課題2】

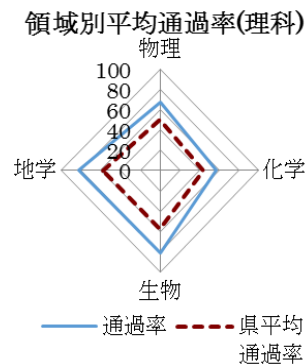
- ・数学的な表現を用いて, 根拠を明らかにし, 筋道を立てて説明し, 伝え合う活動を行う。
- ・観察, 実験, 操作を通して, 表, 式, グラフを三位一体で考える活動を行う。
- ・比例や反比例の特徴をまとめ, それを適切に用いる活動を行う。
- ・日常生活から, 比例の関係にあるか, 反比例の活動であるかを判断させ, その根拠を説明し合う活動を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 復習テスト	1年生 中間試験		2年生 H28「全国学力A」	1年生 H28「基礎・基本」	1・2年生 学年末テスト	
目標値	65.0%	60.0%		75.0%	75.0%	70.0%	
実施後数値							

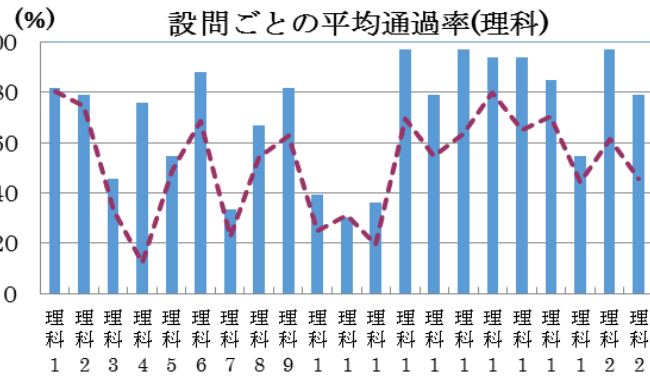
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 復習テスト			2年生 H28「全国学力A」	2年生 H28「全国学力B」	1・2年生 学年末テスト	
目標値	60.0%			70.0%	70.0%	70.0%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.9%, 県 51.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 教科全体では、平均通過率は70.9%(県平均比+19.1pt)で、昨年比6.1pt 上昇した。
- タイプ別に見ると、タイプⅠが、78.3%(県平均比+23.9pt)で、昨年比12.6pt 上昇したのに対し、タイプⅡは、60.9%(県平均比+12.6pt)で、昨年比2.6pt 下降した。
- 平均通過率60%以上の生徒が10.4pt 上昇したが、通過率30%未満の生徒が1名いた。タイプⅠの平均通過率が30%未満の生徒は0名、タイプⅡの平均通過率が30%未満の生徒は6名いた。

重点課題

【課題1】

用語に関する知識・理解及び、活用に必要な知識・理解が不十分である。
(2- (1), 4- (3), 5- (1))

【課題2】

表の読み取りや文章表現力に課題がある。
(3- (2), 4- (4))

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・ 毎授業日のノート複写の宿題、毎時間の小テストを継続する。
- ・ 発問に対する自分の考えを文章化する際に、理科の用語を使って説明させ、概念と用語の定着を図る。

【課題2】

- ・ 日頃の小テストや単元末・定期テストの問題文における図や表の説明文をよく読んで問題を解く習慣を定着させる。
- ・ 毎時間意図的に自分の考えを書かせる場を設定するとともに、テストにおいて文章で記述する問題を多く出題することを継続する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年・期末試験		2年・復習テスト	1年・復習テスト
目標値				50%		80%	70%
実施後数値							

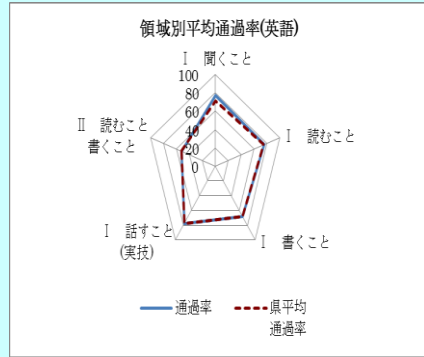
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年・期末試験		2年・復習テスト	1年・復習テスト
目標値				40%		60%	60%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [英語科]

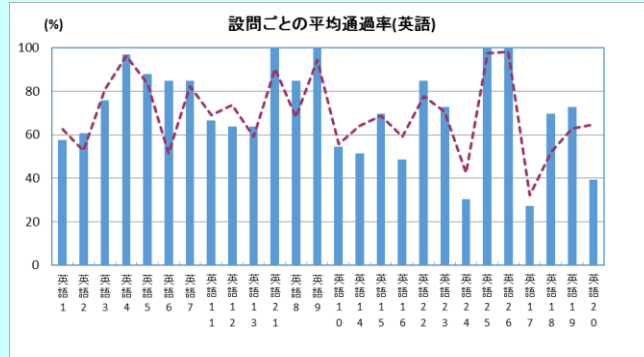
神石高原町立三和中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.1%, 県 69.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 英語科の結果において、タイプⅠは74.7%、タイプⅡは52.3%の通過率となっており、昨年度の結果と比べると、タイプⅠは2.5pt、タイプⅡは18.9pt 下降した。基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着しているが、読み取った内容を用いて英文を書くなど、活用する力に課題があるといえる。
- 領域別で見ると、「聞くこと」「読むこと」及び「話すこと」の理解に関する領域においては、75%以上の通過率となっているが、「書くこと」及び「読むことと書くこと」という、表現に関する領域になると平均 60%に留まることから、前後の文脈から情報を得て、適切な英文を書くといった点に課題があることがわかる。

重点課題

【課題1】

「自分のことについて内容を考えて書く」力を問う問題の通過率が低かった。(大問9: 51.5%, 大問12: 39.4%)であった。伝えたい内容を決めることはできているようであるが、綴りの誤りや動詞の使い方、前置詞や接続詞の使い方の誤りが多くみられた。

【課題2】

「会話の場面に応じて、簡単な文を書く」力を問う問題の通過率が低かった(大問10: 48.5%, 大問11: 27.3%)。文法的な過りと綴りの誤りも見られたが、会話文の内容把握ができていない誤答が多くみられた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

過去形や現在形、主語に応じた疑問文の作り方、一般動詞と be 動詞の使い分けなど生徒がつまづきやすい文法事項の復習プリントを作成し、週末課題として取り組ませる。また、その内容を毎時間行う小テストにも取り入れることで、1年生での学習内容を改めて復習し、定着を図る。

【課題2】

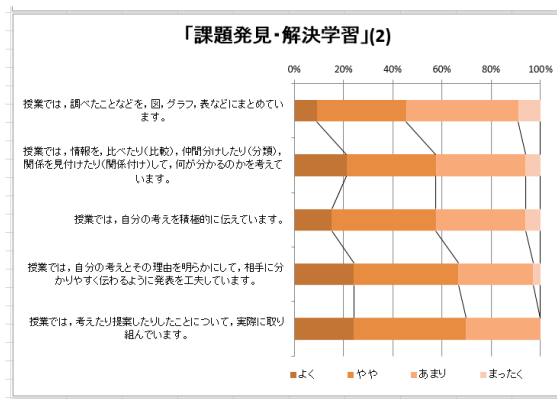
読解指導において、話の流れをつかむために、「登場人物、時間、場所、内容のテーマ」などの基本的な情報の確認を徹底し、接続詞や代名詞の内容などの把握もさせていく。さらに、物語文の指導の際には、内容から把握できる事実発問だけでなく、登場人物の心情を考えたり、「この後の展開を考えてみよう」など、読み取った情報を基に推測したりする発問を設けることで、読み取る上で必要な想像力と推測力の育成を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年期末テスト		2年学年末テスト 1年学年末テスト	
目標値				60%		65% 55%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年期末テスト		2年学年末テスト 1年学年末テスト	
目標値				55%		65% 55%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

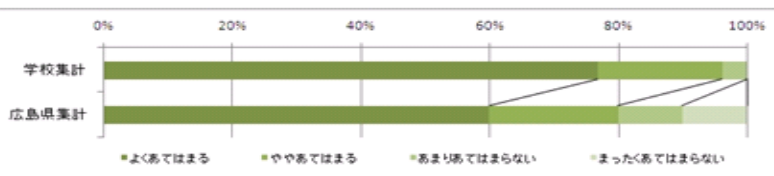
(1) 生活・学習



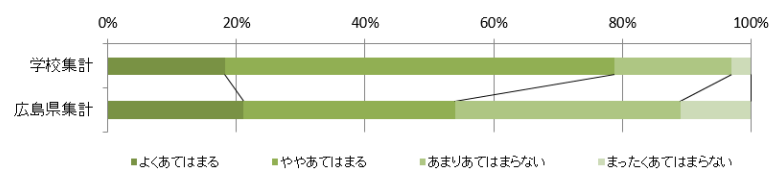
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。」に対して「よくあてはまる」の割合が9.1% (県14.1%) と低く、「整理・分析」プロセスに課題がある。	単元指導計画の見直しを行い、単元の終わりのパフォーマンス課題をする前に、それができるように「整理・分析」の時間を位置づける。	2年	「よく」の割合50%以上	生徒質問紙調査	12月2月		

(2) 教科

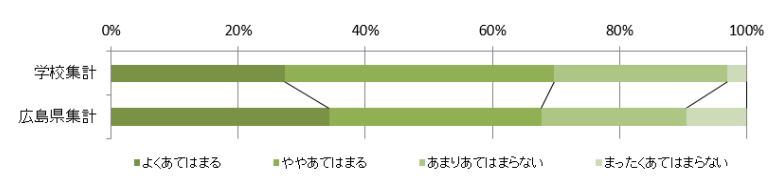
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



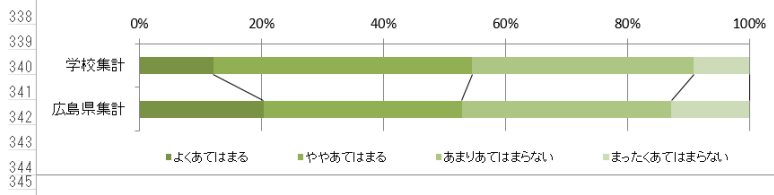
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の勉強は好きです。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、学んだことの振り返りをしています。」という設問について、肯定的評価が県平均より11.4%低い。	授業時間を調整し、振り返りの時間を確保するよう努める。	2年	70	生徒質問紙調査	12月2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」という設問のよくあてはまるが18.2%で他の設問と比較して低かった。	班での話し合い活動において、なぜそうなるのかという理由を考え、発表させる活動を行う。また、発表した生徒を必ず褒め、自信を持たせるようにする	2年	50	生徒質問紙調査	12月2月		
理科	「理科の勉強はよく分かります。」に肯定的回答をした生徒の割合が、100% (県71.8%) であったが、「理科の勉強は好きです。」に「よくあてはまる」と回答をした生徒の割合は、27.3% (県34.3%) と低かった。	実際の生活や社会から授業内容が離れないようにし、身近なものを題材にするなど、今後も授業の改善に努めていく。	2年	50	生徒質問紙調査	12月2月		
英語	「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。」という設問に対して、肯定的回答をした生徒の割合が54.5%であり、他の設問と比較して低かった。	授業中に行うリスニング活動やリーディング活動において、メモを取るよう生徒に指示し、その徹底を図る。	2年	50	生徒質問紙調査	12月2月		